



# 滋賀県と中国湖南省の 先駆的な交流の取り組みについて

滋賀県総合企画部国際課 主査 福田 慧美

1983年3月、滋賀県と中国湖南省は、日本一大きな湖である琵琶湖と中国を代表する湖である洞庭湖<sup>どうていこ</sup>が結ぶ縁から両県省の友好交流が始まりました。その交流は、まずはお互いを理解するための文化交流から始まり、その後、環境や経済、観光、医療・福祉、さらには青少年、平和など幅広い分野へと発展していきました。2023年、両県省の友好交流は40周年を迎え、コロナ禍も落ち着いたことから、双方のトップが相互に訪問し、対面交流を行うことができました。40年の間、両県省は手を携え、さまざまな交流に取り組んでまいりました。今回は、その中でも他自治体ではあまり類を見ないような先駆的な取り組みを紹介します。



記念式典にて記念品を交換  
呉湖南省常務委員（左）三日月知事（右）

## 滋賀県誘客経済促進センターの開設

2019年、友好提携35周年を迎えたことを契機に、経済・企業交流や観光交流に一層力を入れ、両県省の交流を新たなステージに発展・深化させるため、湖南省に県の事務所を開設しました。

中国に事務所を設置している自治体は多くあり、そのほとんどが大都市の北京や上海に設置されていますが、本県は友好提携している湖南省に事務所を設置しました。友好都市に事務所を設置する事例は中国国内では多くありません。

湖南省に事務所を開設したことにより、「湖南省と友好提携している滋賀県」と発信することで、湖南省内の人々により親近感と興味をもっていただけるだけでなく、本県のプレゼンスの強化や新たな交流の掘り起こしにつながっています。これに加えて、省外事弁公室との緊密な連携およびさまざまな交流案件への円滑な調整が可能となりました。開設以来5年余り、積極的な観光・物産プロモーションの実施やウェブ交流会、伝統工芸品展・販売会の開催を通じ、滋賀の魅力を発信し、多くの滋賀ファンをつくってきました。また、両県省の大学生によるワークショップ交流や高校生書道交流の実施を通じて、次世代の担い手の育成、平和、介護分野における新たな交流にも力を入れて取り組み、成果を上げています。

## 平和友好交流のスタート

2025年には戦後80年を迎えます。この年の、中国での慰霊が実現できるよう、両県省の友好提携40周年を迎えたことを契機に、2023年8月に湖南省での平和祈念交流事業を実施しました。

平和祈念交流では、湖南省西部にある「国際平和都市」芷江<sup>しこう</sup>という都市において、日中戦争で犠牲になられた両県省双方の方への慰霊と恒久平和を祈念して、三日月知事をはじめとする両県省の関係者らによる献花を行いました。芷江は、日中戦争の際に激戦地となり、多くの方々が犠牲となった場所です。また、1945年8月14日のポツダム宣言受諾後に中国戦区における終戦会議が開かれた場所としても知られています。

今回行われた平和祈念交流事業では、両県省の高校生と大学生たちにも参加いただきました。献花後は滋賀県から訪中した学生らと三日月知事が座談会を行い、一人ひとりが恒久平和への思いや行動を起こすことの大切さを新たに感じていました。



雨の中献花を行う三日月知事

この取り組みは、本県として中国で行う初めてのものであるうえ、その性質上決して簡単に実施できるものではありませんでした。これまで培ってきた滋賀県と湖南省の友情関係があったからこそ実現できた交流であり、今後の「平和友好交流」の出発点となりました。

## 介護人材交流プロジェクトの開始

2025年、日本は国民の5人に1人が後期高齢者という超高齢化社会を迎えます。超高齢化社会における介護サービス提供体制の整備、介護人材の確保は本県でも喫緊の課題となっています。この課題を解決すべく、2021年に滋賀県と湖南省との介護人材交流プロジェクトをスタートしました。

本プロジェクトは、単に湖南省から滋賀県へ介護人材を送るだけでなく、「福祉先進県」である滋賀の介護施設で学び、その経験を活かして中国帰国後に介護のリーダーとして活躍していただく循環型の交流というのがポイントです。日本から帰国した後のキャリアパスを明確に示すことで技能実習生たちにより前向きに事業に携わっていただくことができます。また、湖南省政府の全面的な協力をいただいております。皆さん「湖南省を代表して滋賀県で介護の仕事をする」という意識を持ってくださっています。

本プロジェクトの実施に欠かせない機関が「滋賀県国際介護・福祉人材センター」です。このセンターは、県内の事業者団体などの合意のもと、滋賀県と（一社）滋賀県介護老人保健施設協会の共同事業として創設したものであり、県内の介護事業所と外国人材とのマッチング支援を行うだけでなく、センターの介護福祉士が中心となり日本語や介護技術などの習得への支援や、事業所と

外国人職員の双方が安心して働ける環境づくりのサポートも担っています。さらに、中国人の職員もいますので、中国人実習生からのさまざまな相談に対応できる体制が整っています。



滋賀県に向けて出発する第一陣の職員

2020年12月に第1回目の面接を行い、新型コロナウイルス感染症に対する水際対策が緩和された2022年5月に第一陣となる7名が来県され、プロジェクトが本格始動しました。介護や高齢者の生活についての知識を深めながら皆さん日々ご活躍されています。

滋賀県ではこのような先駆的な取り組みのほか、2028年に迎える両県省友好提携45周年を見据えて、次世代の交流を担う青少年の交流を中心に友好交流の一層の推進を図っています。



介護施設でご活躍されている中国人実習生